

## 交付償還運用報告書

### UBS グローバル公共公益債券ファンド (通貨選択シリーズ) 円コース<毎月分配型>

追加型投信／内外／債券

第111期 (決算日2019年3月25日)  
第112期 (決算日2019年4月25日)  
第113期 (決算日2019年5月27日)  
第114期 (決算日2019年6月25日)  
第115期 (決算日2019年7月25日)  
第116期 (償還日2019年8月26日)

作成対象期間 (2019年2月26日～2019年8月26日)

### UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア  
イーストタワー

<お問い合わせ先> 投信営業部 03-5293-3700  
(受付時間: 営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く)

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書(全体版)は以下の方法でご覧いただけます。

<閲覧方法>

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名(日経新聞掲載名でも可)を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書(全体版)」のタブをクリック

なお、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「UBSグローバル公共公益債券ファンド(通貨選択シリーズ)円コース<毎月分配型>」は、2019年8月26日をもちまして信託約款の規定に基づき償還させていただきました。

当ファンドは、主として外国投資信託への投資を通じて、信用力の高い、世界の公共公益関連企業が発行する債券を中心に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指します。なお、円コースでは、投資対象資産が実質的に円建てとなるよう為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。当作成対象期間におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドをご愛顧いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

#### 第116期末(償還日 2019年8月26日)

償 還 価 額	9,207.51円
---------	-----------

純 資 産 総 額	1,119百万円
-----------	----------

#### 第111期～第116期 (2019年2月26日～2019年8月26日)

騰 落 率*	4.4%
--------	------

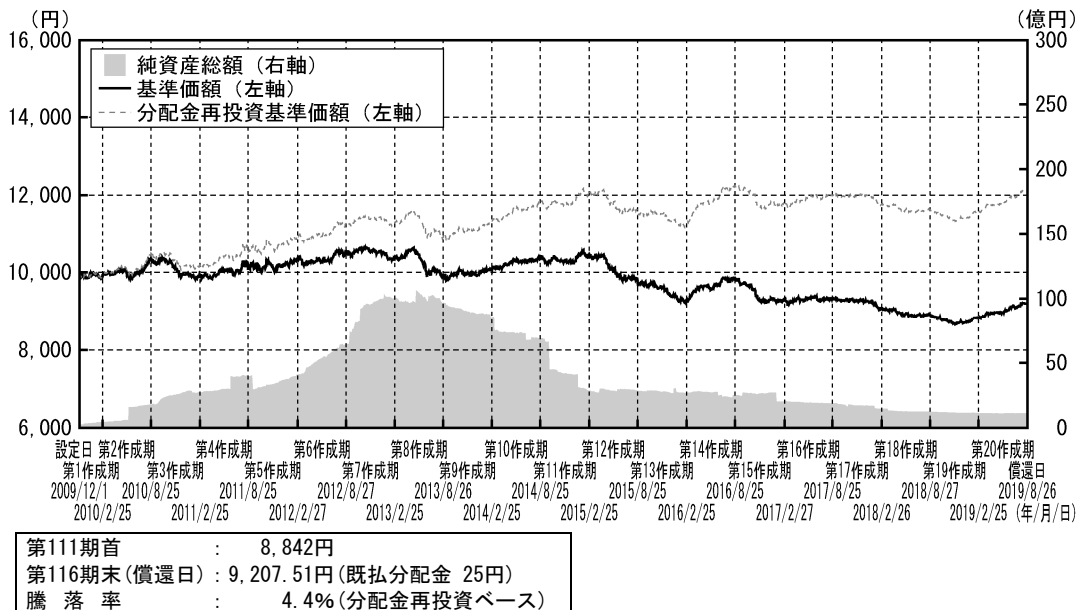
分 配 金 合 計	25円
-----------	-----

※騰落率は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

## 運用経過

## 基準価額等の推移について

＜基準価額等の推移（2009年12月1日～2019年8月26日）＞



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、設定日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

■ 基準価額は既払分配金25円（税引前）込みで390.51円値上がりしました。なお、基準価額の騰落率（分配金再投資ベース）は+4.4%となりました。

## 基準価額の主な変動要因

- ・ 実質的に投資を行っている世界の公共公益債券からの利子収入
- ・ 実質的に投資を行っている世界の公共公益債券の価格変動に伴う損益
- ・ 為替取引に伴うコストまたはプレミアム（円と世界の公共公益債券に係る通貨の短期金利差相当分の損益）

■ 当作成期の基準価額は、実質組入債券の価格上昇と利子収入などのプラス要因が、為替取引に伴うコストなどのマイナス要因を上回ったため値上がりしました。

## 1万口当たりの費用明細

項目	第111期～第116期 2019/2/26～2019/8/26		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	43円	0.474%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は9,003円です。
（投信会社）	(16)	(0.183)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(24)	(0.269)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.022)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	3	0.036	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	(1)	(0.009)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	(2)	(0.026)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	(0)	(0.001)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	46	0.510	

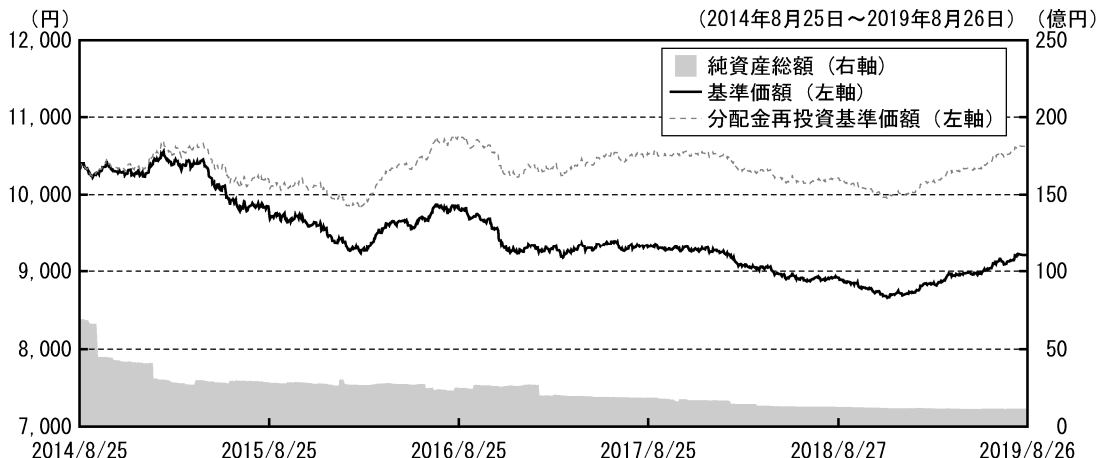
（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（注4）各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

最近5年間の基準価額等の推移について



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年8月25日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

	2014年8月25日 期初	2015年8月25日 決算日	2016年8月25日 決算日	2017年8月25日 決算日	2018年8月27日 決算日	2019年8月26日 償還日
基準価額 (円)	10,339	9,793	9,818	9,315	8,914	9,207.51
期間分配金合計（税込み） (円)	—	405	480	300	130	60
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 1.4	5.4	△ 2.0	△ 2.9	4.0
純資産総額 (百万円)	6,859	2,849	2,509	1,870	1,228	1,119

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「期間分配金合計（税込み）」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率および分配金合計（税込み）です。

※当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

## 投資環境について

### ■ 公共公益社債市場

当作成期の投資適格社債市場は上昇しました。

作成期の前半は、経済協力開発機構（OECD）による世界経済の成長見通し引き下げや欧州中央銀行（ECB）によるユーロ圏の成長率下方修正、通商問題をめぐる米中の対立激化と世界経済の減速懸念、さらには米国の利下げ観測が浮上したことなどを受けて、米国、欧州ともに長期金利は低下（債券価格は上昇）し、投資適格社債市場は堅調な展開となりました。後半に入っても、米当局の金融緩和的な姿勢、国際通貨基金（IMF）による世界経済の成長見通し引き下げ、欧州中央銀行（ECB）のユーロ圏経済成長率とインフレ見通しの引き下げなどを受けて、米国、欧州ともに長期金利は低下を続けました。期末近くに、米連邦公開市場委員会（FOMC）が約10年ぶりの利下げを決定したことなども各国長期金利の低下を促しました。こうした環境の下で、投資適格社債市場の上昇基調は継続し、前作成期末を大きく上回る水準で作成期末を迎えました。

## ポートフォリオについて

<当ファンドのポートフォリオについて>

■ 当ファンドは、グローバル・コンサバティブ・セクター・コーポレート・ボンド・ファンド（JPY Class）およびUBS短期円金利マザーファンドの受益証券に投資を行い、グローバル・コンサバティブ・セクター・コーポレート・ボンド・ファンド（JPY Class）への投資比率は信託期間を通じて高位を維持し、2019年8月には組入ファンドを売却して償還日までに現金化を完了しました。

<グローバル・コンサバティブ・セクター・コーポレート・ボンド・ファンド（JPY Class）のポートフォリオについて>

■ 当ファンドは、期を通じて、信用力の高い、世界の公共公益関連企業が発行する債券に投資を行いました。なお、投資対象資産が実質的に円建てとなるよう為替取引を行うことにより、対円での為替変動リスクの低減を図りつつ運用を行いました。

<UBS短期円金利マザーファンドのポートフォリオについて>

■ 当ファンドは、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を主たる投資対象とし、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当作成期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、コール・ローン等での運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

- 当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

## 分配金について

- 当作成期の分配金については、分配原資の水準、運用実績および市況動向等を勘案し、第111期から第115期まではそれぞれ5円（税引前）といたしましたが、第116期（償還期）は償還のため分配を行いませんでした。なお、第116期（償還期）までに信託財産中に留保されてきた利益につきましては、償還価額に含みお支払いいたしております。

## 分配原資の内訳

（1万口当たり・税引前）

項 目	第111期	第112期	第113期	第114期	第115期
	2019年2月26日～ 2019年3月25日	2019年3月26日～ 2019年4月25日	2019年4月26日～ 2019年5月27日	2019年5月28日～ 2019年6月25日	2019年6月26日～ 2019年7月25日
当期分配金	5円	5円	5円	5円	5円
（対基準価額比率）	(0.056%)	(0.056%)	(0.056%)	(0.055%)	(0.055%)
当期の収益	－円	－円	－円	－円	－円
当期の収益以外	5円	5円	5円	5円	5円
翌期繰越分配対象額	29円	24円	19円	14円	9円

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

## お知らせ

- 該当事項はありません。

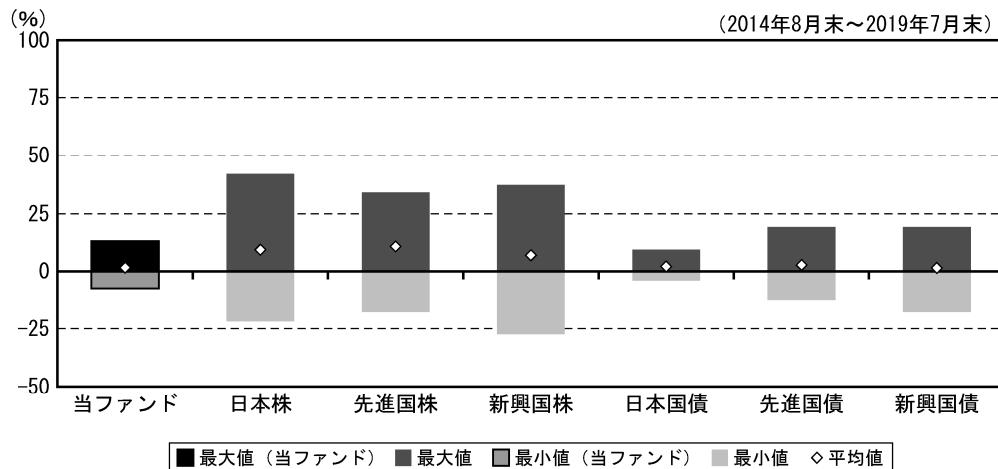
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	信託設定日（2009年12月1日）から2019年8月26日まで	
運用方針	主として外国投資信託への投資を通じて、信用力の高い、世界の公共公益関連企業が発行する債券を中心に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を目指します。なお、円コースでは、外国投資信託への投資を通じて、投資対象資産が実質的に円建てとなるよう対円で為替ヘッジを行い、対円で為替変動リスクの低減を図ります。	
主要投資対象	グローバル・コンサバティブ・セクター・コーポレート・ボンド・ファンド（JPY Class）（以下「指定外国投資信託」といいます）およびUBS短期円金利マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。	
	グローバル・コンサバティブ・セクター・コーポレート・ボンド・ファンド（JPY Class）	主として、信用力の高い、世界の公共公益関連企業が発行する債券に投資を行い、証券投資運用においては、当該企業セクターに対応するブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合社債インデックス（円ヘッジ、円ベース）をベンチマークとします。併せて、投資対象資産が実質的に円建てとなるよう対円で為替ヘッジを行い、対円で為替変動リスクの低減を図ります。
	UBS短期円金利マザーファンド	わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を主要投資対象とします。
運用方法	指定外国投資信託の受益証券の組入れについては高位を維持することを基本とします。ただし、指定外国投資信託とUBS短期円金利マザーファンドとの投資比率については、収益性と流動性を鑑み特に制限を設けませんが、通常の運用状況においては指定外国投資信託の受益証券への投資割合を原則として90%以上とします。	
	グローバル・コンサバティブ・セクター・コーポレート・ボンド・ファンド（JPY Class）	公社債への投資については、原則として、購入時において主要格付機関より格付がBBB-/Baa3以上の長期格付けが付与された銘柄に投資を行います。 ※BB格相当以下の銘柄の購入は行いません。格下げ等を理由に一部、BB格相当以下の銘柄を保有する場合があります。なお、一部格付をもたない銘柄についても、運用者がBBB格相当以上と判断した銘柄について投資する場合があります。投資対象資産が実質的に円建てとなるよう為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。
	UBS短期円金利マザーファンド	代表的銀行の3ヵ月大口預金金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。 原則として、購入時において短期格付はA-1/P-1/a-1/J-1以上、長期格付はA3/A-以上の格付けが付与されたものに投資を行い、ポートフォリオの平均デュレーションは、原則として一定の範囲内（原則として0～1.0年の範囲）で変動させます。
分配方針	毎決算時（原則毎月25日、休業日の場合には翌営業日）に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の中から継続した分配を行うための分配金原資の水準、運用実績および市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益の運用については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※上記分配方針において「継続分配を目指す」方針とされていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配および継続分配とならない場合があることにご留意ください。

（参考情報）当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	13.0	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△7.4	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	1.5	9.3	10.6	6.9	2.0	2.7	1.4

\* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\* 2014年8月から2019年7月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

\* 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。

\* 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

■各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）

（注1）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

（注2）詳細は最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご覧ください。



## ファンドデータ

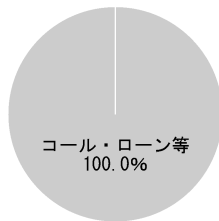
### 当ファンドの組入資産の内容

(2019年8月26日現在)

#### ■組入上位ファンド（銘柄数：一）

償還時における有価証券等の組入れはありません。

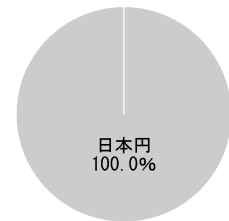
#### ■資産別配分



#### ■国別配分

償還時における有価証券等の組入れはありません。

#### ■通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 詳細な情報等については、「償還運用報告書（全体版）」をご覧ください。

### 純資産等

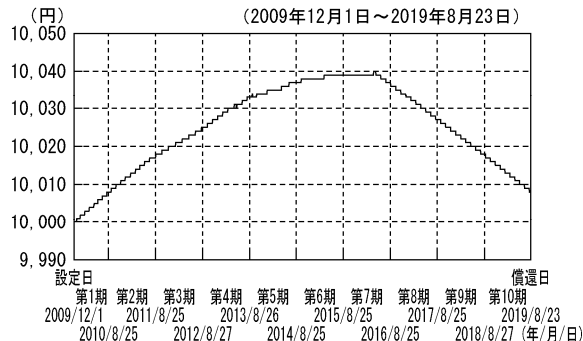
項目	第111期末 2019年3月25日	第112期末 2019年4月25日	第113期末 2019年5月27日	第114期末 2019年6月25日	第115期末 2019年7月25日	第116期末(償還日) 2019年8月26日
純資産総額	1,128,718,655円	1,108,697,087円	1,106,466,215円	1,121,697,781円	1,114,253,372円	1,119,111,786円
受益権総口数	1,261,784,638口	1,235,193,032口	1,233,790,435口	1,230,042,610口	1,218,909,221口	1,215,433,550口
1万口当たり基準(償還)価額	8,945円	8,976円	8,968円	9,119円	9,141円	9,207円51銭

(注) 当作成期間(第111期～第116期)中における追加設定元本額は2,867,505円、同解約元本額は63,568,105円です。

## 組入上位ファンドの概要

＜UBS短期円金利マザーファンド＞  
（2019年8月23日現在）

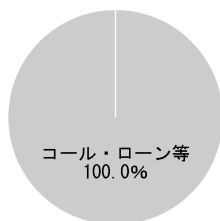
### ■ 基準価額の推移



### ■ 組入上位銘柄（銘柄数：－）

償還時における有価証券等の組入れはありません。

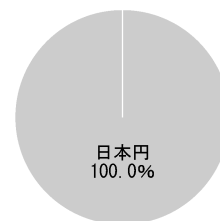
### ■ 資産別配分



### ■ 国別配分

償還時における有価証券等の組入れはありません。

### ■ 通貨別配分



（注1）「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国別配分」、「通貨別配分」はマザーファンドの償還日現在のものです。

（注2）「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国別配分」の比率はマザーファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

（注3）詳細な情報等については、「償還運用報告書（全体版）」をご覧ください。

### ■ 1万口当たりの費用明細

該当事項はありません。

※当マザーファンドの運用経過につきましては、「償還運用報告書（全体版）」をご覧ください。

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

- ・ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）  
東証株価指数（TOPIX）に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社東京証券取引所に帰属します。
- ・ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）
- ・ MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）  
MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
- ・ NOMURA-BPI国債  
NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。
- ・ FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）  
FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）  
JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。